

課題名 古代ギリシア住宅の復元～オリュントスの幸福の家～

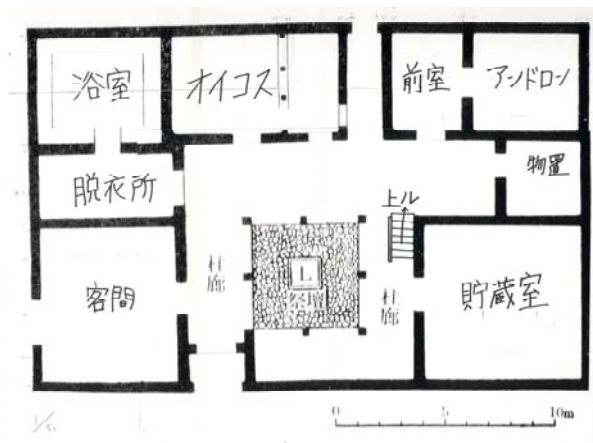
指導教員 中西 章 教諭

<研究の目的>

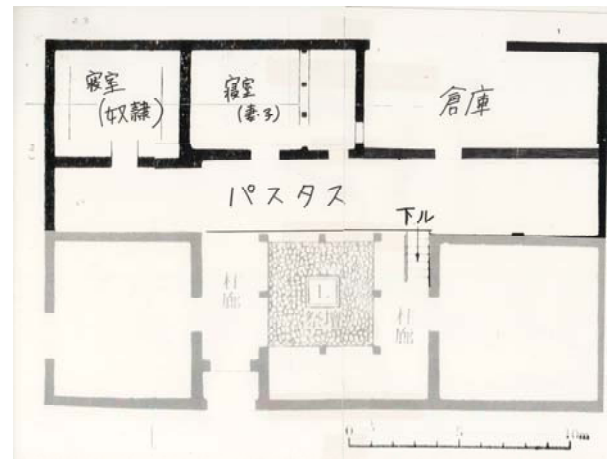
ギリシアの建造物を調べたとき、神殿ばかりの中に一般住宅を発見し2階があったことからその当時の技術の高さに感銘を受け、より詳しく調べ、復元を行った。

<研究の方法>

この時代の特徴的なつくりであるアンドロンやパスタス、オイコスユニットなどを、現存する遺跡の間取りに当てはめて図面をつくる。これを元に模型製作を行い、より理解を深める。



▲ 1階



▲ 2階

<研究対象>

古代ギリシアにつくられた、オリュントスの丘北部にある「幸福の家」。この建物は東西に長くつくられている住宅群の一つである。

<考察>

まず、この課題を研究するにあたり資料を集めることから始まった。時代が古過ぎることもあり、文献が集まらず、細かい資料を少しずつ集めて大まかなイメージをつくった。これは2階建ての住宅であり、「アンドロン」（男部屋）、「オイコス」（台所）、「パスタス」（廊下）、倉庫、祭壇がある。住宅の中央部に祭壇があることから、宗教的なつくりが強くみられる。オイコスの部分は炉が遺跡として残っていたため、低い仕切りを設け換気ができるようにした。オイコス、浴室などの水回りをまとめたものを特に「オイコスユニット」といい、既にこの時から水回りをまとめるという、建築の基本になっていた。「幸福の家」はこの時代の中流階級の一般的な住宅であるが、非常に大きいものであった。高さは古代ギリシア人の平均身長を考え、高く設定した。現存する遺跡から、材料は石が主

に使われ、石材を積み重ねて家をつくりあげたため、今でも壁などが低く残されている。

<模型の概要>

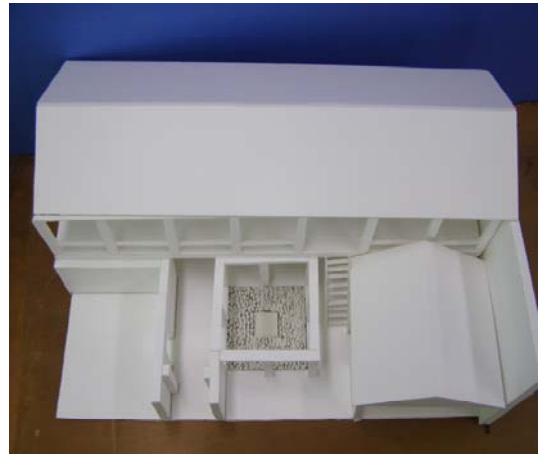
模型材料—スチレンボード、ケント紙

縮尺—1 / 50

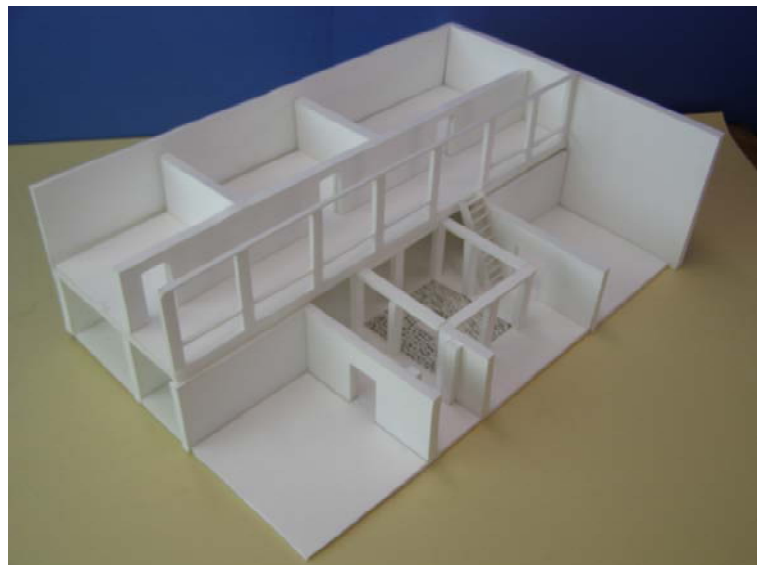
<まとめ>

復元模型は写真のようになり、2階が北側に存在し、一つ一つの部屋が大きく広々としている。

中央の祭壇は家族用で、日常に宗教を強く取り入れていることがわかる。また、水まわりをまとめていたことから今でも使われている考え方のもとになったと考えることができる。階段は梯子のようになっており、2階のパスラスにかかるようにし、傾斜は急である。1階には主の部屋であるアンドロンが存在し、妻、子供、奴隷の寝室は2階に設けられていた。



屋根は木材を使用していて祭壇に向かって傾斜するように存在し、家全体にかかるのではなく祭壇を囲むようにつくられた。この建物はローマのポンペイのアトリウム形式の家に似ている。アトリウムとは、水道技術の発達したローマでよく見られる建築形式である。これは祭壇に雨水を貯めるために考えられていた形で今回の屋根を作るうえで参考となった。



<参考文献>

小林文次「オリュントス住宅の古代住宅史上の意義」日本建築学会論文報告集第69号、昭和36年10月

堀賀貴「古代ギリシャ・ローマ都市住宅における上部空間に関する研究」日本建築学会計画系論文集第456号・平成6年2月

『世界建築全集6 西洋I 古代』

レオナルド・ベネーヴォロ『図解 都市の世界史 古代』

ローラン・マルタン『世界の建築 ギリシア』